

# 集中ディスカッションや「たんと活動プランニュース」等でのアイデア集

(順不同)

## ● 観光・レクリエーション分野

- 伊根湾などでシーカヤックに乗って新たな発見をする。
- 道の駅だけでなく、「海の駅」をつくり、交流拠点にする。
- 天橋立で行われている「寒中てんころ舟競争」など地域限定の年1回のイベントを他の時期や他の地域でも活用する。（「てんころ舟」は、夏には「ころてん舟」として、春や秋は帆を張って活用するとか、阿蘇海、伊根湾、久美浜湾での活用など。）
- 特区制度を活用して、ラスベガス並みのカジノを考える。
- 温泉を訪れる人に、ゆっくり休んだり、涼んだり、話が出来る場所や仕組みをつくる。
- 増加する高齢観光客が楽しめる仕掛けづくりをする。
- 安売りをせず、対価にあったここでしか味わえない満足感を観光客に与える。
- 地域の施設を新しくし（リノベーション）、ネットワーク化して、地域の人に活用方法を任せる。
- 以前行った丹後の自然の「音」をテーマにした国際的なコンサートのような丹後でしかできない世界に向かって発信できるイベントを考える。
- 「カニ」に変わる丹後のテーマ探しとして、「夕日」にこだわった地域づくりなど、新たなイメージづくりをする。
- 天橋立の運河を利用した水上マーケットで地元の農林水産物を販売するなど観光と農林水産がリンクした取組をする。
- カニ殻を活用した有機野菜栽培の拡大など地産地消・循環の取組を進める。
- 丹後の米や有機野菜、自然食を宿泊施設で提供していくなど、丹後の食材を活用してPRする。
- 観光業者だけでなく、地域の人全体が、観光客に、もてなしの心であたたかさを伝える。
- 自分たちが住んでいる地域を学び、誇りを持ち、郷土を愛し、観光客に満足してもらえるような地域とする。
- 住んでいるまちを誇りに思い、住んでいたいと思える地域をつくる。地域の良いものを掘り起こす。
- 民宿に後継者を残すためにも、若者が住みたくなるようなまちにする。
- 統一看板又は条例等での看板規制や電柱の地中化を進める。
- いろんな所に良いイメージになるネーミングをし、地域への愛着を高め、外部の人にも親しみやすくする。



- 丹後ちりめんを使って丹後の強烈なイメージをつくる。インパクトのあるものがどの旅館に行っても1枚はあるような形がいい。
- インターネットによる施設の予約の拡大や丹後のあらゆる情報を集約したホームページなど、もっと効果的なPRをする。
- 天橋立と久美浜湾を丹後の東西の入口として、美しい自然、歴史文化が散りばめられた一つの箱庭のようなイメージを作り、いろんなルートから丹後を楽しめるように協力し、良い地域にしていく。
- 高校等にホテル科など観光の学科があってもよい。
- いろんな大学がこの地域に来て研究し、競争し合えるようなオープンカレッジの拠点をつくる。
- 丹後が観光産業の人材育成で日本のリーダー的な役割を果たすようにする。
- 但馬空港をうまく使って関東圏とのアクセスを強化する。
- 高速道路のインターチェンジのないエリアであることを売りものにする。
- 「海と温泉とカニ」という観光から、「和の暮らし」や「まちなみ」といった丹後の素晴らしさをプロモーションする戦略を考える。
- 観光客を満足させるには、インストラクターの資格制度や講習会など、受け入れ体制の整備をする。
- 丹後の観光、歴史文化、自然などをリンクさせて、トータルとしての文化力、言語力で表現し、地域の底上げをする。
- 高さ5～9mの太陽熱を利用した走馬燈のようなものをつくり、観光客を引きつける。
- 風、水、波、太陽光発電等の環境半島にする。
- 内湾、外湾、史跡を生かした新しい観光スポーツ施設をつくる。
- プランナーを募集する。推進プロジェクトチームを有志、ボランティアでつくる。メディア対策として、テレビ・新聞の話題づくりをする。映画、小説を製作する。歌謡祭等のフェスティバルをする。
- 日本海又は久美浜湾に展望、レストランのある小さな人工島をつくる。
- 観光客を招くため海を利用する。
- 地元の産物を安く提供できる施設をつくる。
- 丹後半島の縦貫林道沿いに本格的トレッキングコースをつくる。
- 「観光大学」に各施設を位置づけプロの講師陣を配置し、観光関連の従事者を系統的、実践的な教育を進める体制をつくる。
- それぞれの観光施設のイベント情報等を集約し組み立てる「丹後観光情報センター（仮称）」を設置する。
- 丹後を花のある美しい地域として打ち出す。
- 羽衣伝説、浦島伝説、徐福伝説の三大伝説関連史跡楼閣の建造とこれらを繋げる新た

な観光道路をつくる。

- 兵庫県北部と観光での連携組織をつくり、基盤整備や広報をする。
- 丹後を歩き回り、自然、歴史、文化、地場産業、芸術を鑑賞・体験できる「文化的芸術エリア」として整備する。
- 天橋立を入れて管内に4つの砂嘴が形成されたことを学習材料として提示する。
- 丹後の観光紹介を兼ねたスタンプラリーのようなものをつくる。コースも、自然コース、自然科学コース、歴史的建造物コース、インフラ整備コースなどを考える。
- 兵庫県北部との連携を視野に入れ、城崎温泉での湯治と丹後ちりめんの見学、天橋立や成相山を加えた旅行を「癒しのツアー」としてつくる。
- 朝鮮半島、中国、ロシア等との間で「京都日本海対岸交流船」を周航させる。
- 語り部（観光ガイド）の養成をする。

## ● 農林水産業分野

- 地域内での地産地消を進める。
- 竹や廃材を燃やして炭化させて炭を作り、畑にまいて野菜をつくる、こうした循環型の仕組みを丹後のイメージとしていく。
- 台所のゴミを堆肥化し、発酵させて畑へ還元するシステムを丹後全体でつくる。
- 地域の酪農業の糞尿を利用して、有機農業を進める。
- 河川や海の汚泥を堆肥や煉瓦、ブロックとして再利用する、使用済みのサラダ油を回収し燃料にする、燃やせるゴミを発電に利用するなど循環型の取組を進める。
- 都会で田舎暮らしがしたいと思っている人に農作業や土とのふれあいができる場所、施設を結びつけていく。
- 生活道路や水路など住民が高齢で手が回らない地域に、「草刈り遠征隊」のような形で人が来て、実際の田舎暮らしを知ってもらい、また、田舎の人が都会の話が聞けるようにする。
- 出来るだけ農薬を使わない農産物を作り、出来る限り近くで消費することを徹底していく。
- 中国の高所得者向けに、日本の安心安全な高級農産物を販売していくこともある。
- 「丹後では、健康にいいものだけをつくる」という宣言をする。
- 経済的な面での規制緩和、環境、安心安全という面では規制の強化を考える。
- 新規就農に対して総合的な支援をする。
- 丹後に来たオープンカレッジの学生が、そのまま就農するような仕組みをつくる。
- 農業をするとこんな生き方、暮らし方ができるといようなことを教える「就農予備

校」を設置する。

- 農業も林業も水産業も観光の大きな資源であり、人手不足の解消が出来たり、人と人との交流が生まれたりすることを考え、都市と農村の交流に力を入れる。
- 産直の販売では、値段よりも安心安全に価値を付けてPRを広げる。
- 自分で獲った魚介類をほしい人に売るという自主流通体制をつくる。
- 生産物の既存の流通システムと自主流通を選べるようにする。
- 丹後で捕れた魚を持って帰りたいというお客さんに対して、許可をとって下処理等をして販売できる基地のようなものをつくる。
- 旅行代理店、旅館、ホテルと連携して、京阪神から1泊コースで、牧場や地域農業の状況を見せる。
- 地域の農業活性化のために若いときから農業の大切さを教える。
- 地域の農林漁業のことを知らない子どもたちに地元のいいところを伝える。
- 学校給食で地元でとれた野菜など農水産物の活用をもっと進める。
- お客さんを集めるためには、丹後地域全体での取組と情報発信をする。
- 丹後の1次から3次産業までひっくるめて、情報をまとめる組織をつくる。
- 平成の丹後王国に「情報司令塔」のようなものを設置する。民宿の女将さんがいろいろな情報を得て、お客さんに伝えることで、お客さんを感動させる演出家になる。
- 丹後は、「人と人、心と心のつながりを大切にしているまちなんですよ。」ということ、トータルな流れとして訴える。
- 丹後の米がおいしいということは、たくさんの良いものが表現できるということ、また、食べてもらえば直販してほしいという仕組みができる、丹後は米どころということをもっとPRする。
- 地域が生き残るためには、情報発信という点でのブランド戦略を考える。ブランド化のためには、品質の保証と統一、ロゴマーク、推進体制の統一とともに、それをプロデュースできる人材の育成、活用を考える。
- 消費者に対して、特に品質などの点では誠実な対応をする。
- みんなが応援したい、住んでみたいと思われるような地域づくりをする。
- 丹後の安全安心で美味しいものということを端的に表現するものとして、「おじいちゃんが孫のために作ったお米」というキャッチフレーズを使い、広める。
- 丹後のブランドはどこにも負けないものがあり、ボランティアなどの力を借りて観光とリンクする。
- 国営農地の土手、斜面に桑を植え、その桑の実で果実酒をつくる。
- お客さんを都市の親戚・知人と同様に扱う農宿、林宿、漁宿をつくる。
- 日本の真ん中半島米（ヘソヒカリ）と地酒をつくる。
- 農林水産他の地元の産物の一大市場をつくり、京阪神の客を招く。

- 竹野川沿いに30kmのモミジ街道をつくる。丹後の山にケヤキ、ブナ100万本植林する。
- 水産分野ですぐに技能習得が出来る短期養成機関をつくる。
- 米づくりを実働組織と品質の両面からサポートする。
- 国営開発農地の営農を多面的に推進する。
- 丹後あじわいの郷を食育推進の拠点として位置づける。
- 荒廃している森林を整備し山村住民と都市住民との交流の場とする。

## ● 織物、機械金属業等地域産業分野

- 丹後が現在の日本の絹織物の半分を織っているという原点に立ち返り、その強さを伸ばしていく具体的なビジネスモデルを戦略チームでつくる。
- 現在室町に集約されている着物のビジネスモデルを変えていくことも考える。
- 和装でなくても、売り先をコーディネートする仕組み、事業所がうまくネットワークするための核をつくる。
- シルクはリサイクルが可能な商品であり、例えば電磁波を防ぐものとか、シルクで培った技術力で、機械金属の方ともコラボレートとして何か新しいものを考える。
- 今すぐ出来ることと10年後に向けてやることを分けて考え、どういう用途のものがあるのか、そのために必要な人材をどうリクルートし、いつまでにどうするのかといった具体策を検討する。
- 長期目標では世界の変化のスピードに対応できないし、市場が変わってくるので、ビジネスとしては3～5年を目標にする。
- 丹後の企業の中にはすごいものが隠れている。どういう商品を作っていくか、100社くらいがまとまって完成品をつくることを考える。次世代ファンド等をつくり、日本の企業のすごさをみせることをする。
- 日本ではシルクの洋服の良いものが売っていないので、デザインの良いものを半オーダーのような形で売る。
- ブランドを独自でつくるということは、他の商品と区別できるもの、販路から全てをフルセットで丹後でやることを考える。ちりめんは、ハイクラスなものであり、社交性が高く品薄のフォーマルな洋服など分野に狙いを定めていくことを考える。強烈なイメージと商品力で品薄の分野に対して、今までとは全く違う物を通信販売で売るとか、商社をつくるとか考える。そのためにアピール力の強いものをつくる。
- ブランド化するという事は最終製品により近づいていくことで、新しいビジネスモデルというかバイパスを考える。
- ロイヤリティを取られるが、フランス、イタリアのブランドと組むこともある。



- 日本のファッション関係の登竜門となるようなファッションショーを丹後で開催する。イタリアのコモとかミラノコレクションを使って、世界に打っていけるようなことを考える。
- 今ある資源の中で、どうやっていくか、そのための戦略チームをどれだけ作っていかけるか。
- 常にお客さんが何を求めているかを考え、投資が必要であれば思い切ってやり、出来る範囲のことをやる。
- お客さんがほしいものを1個でもつくる、どこにもない量産品でないものをつくる、エンドユーザーが製造者と直で相對する新しい形を始める。
- 機械金属では、丹後の集積を活かせる仕組みをつくる。それぞれの会社のPRをもっと行う。
- 丹後ものづくり王国というのもある。
- 世界に発信するだけの力を持った人材を東京や大阪からでも補給していく。
- 民間の大手企業のOBを府のコーディネーターとして登用する。技術的に対応できないものは京都工芸繊維大学のサテライト等の協力を得て、先端のものづくりをしていく仕組みをつくる。
- ものづくりを支えていく優秀な人が地域に帰ってくる、期間をかけて人材を育成するというトータルの仕組みを考える。
- いろんな資格を取得できる場所を丹後につくれば、全国から人が来る。
- 今の観光客は豊かなライフスタイルを過ごすためにやってくるので、ここに来たら着物が似合う、作れるという地域にして、その実現のためにもものを買ってもらおうという演出もある。
- 機械金属業と繊維工業の集積を活用する顔の見えるネットワークをつくる。
- これだけの織物業、機械金属業等があるので、丹後をハイテクランドとし、日本でここだけでしかない、ここに来ないと仕事にならないという構図をつくる。
- 若い人は住むところにそれ程こだわりがないので、優秀な若い技術者が商売をしていける安価で利用できるインキュベータ施設などを整備する。
- インターネットで世界中からものが簡単に手に入る時代なので、ここでしかないものやこだわりのあるものを考える。
- 食は人を育てる大事なものであり、安いものを求める流れの中で、質の高いもの、ちゃんとしたものを消費者に提供する。
- その土地で取れたものをその地の料理法で調理すると、よく分かっているので安心であり、そういった食べ方や素材を次の世代にも継承していく。
- もっと外へ出て、いろんなものや様々な業界を見て、今どういう流れになっているのか、何を取り入れられるかということを考える。

- 各界で活躍した方々の体験談、方法論を整理し、新しい時代の流れで肉付けされたマニュアルを発行し、次世代の経営者、起業家の励みにする。
- 着物について、インフォーマルな場面づくりの仕掛けをする。
- 丹後ちりめんで着物以外の様々なものやチャイナドレスなどの独自の高級服飾品をつくる。
- 兵庫県北部と丹後地方とで商談会をする。豊岡市の地場産業の鞆と連携し、高級丹後ちりめんで装飾した鞆をつくる。
- 各種産業界への優秀な人材を確保する手法として大学生の長期インターンシップ制度を大学の履修科目として、人材候補者の受け入れをする。

## ● 生活・地域づくり分野

- 自然は、ちゃんと人の手を加えて守る。
- 丹後のブナ林など貴重なものに対して、地域の人意識を高め、地域全体のこととして環境を考えられるようにする。
- 使用済みの天ぷら油からディーゼル燃料を精製する取組も、一つの村だけでなく丹後地域全体に広げる。
- 不法投棄をなくす運動はボランティアや地域の運動としてもっと発展させる。一人一役運動も進める。
- 地域に貢献できる子どもを育てる、丹後にとって貴重な青少年を一人ひとり大切に育てる。
- 地域や民間の意見を取り入れて地域ニーズにあった社会教育に取り組む。体験学習なども子どもの視点を取り入れる。
- 丹後には体験施設が多数あるので、これらを活用し、子どもたちの地域への関心や働く喜び、ものを大切にする気持ちを育てる。
- 母子家庭の求職に対して、平等に取扱う。
- 土曜日午後の保育等、子育てをする親が本当に困っているところに手が差し伸べられるようにする。
- 生活習慣病の予備軍になっている人が、心の悩みや体の疲れを忘れてしまうようなサロンづくりとか、丹後に来たら元気になったと言われるような予防医学的な取組を考える。
- 昼間家族が働きに出た後に家に残っている高齢者のフォローをする。
- 日常生活の中で一番重要な食の確保という点で、高齢者への配食サービスを増やす。
- 配食サービスの補助を定率でなく、定額にしてもっと多くの人にサービスが提供でき

るようにする。

- 80歳を越え、交通機関もなく歩くしか手段がない高齢者等の社会参加を助ける活動をする。
- 高齢者を家に閉じこめない、農地に出て張りあいを持ってもらうようにする。
- 丹後の食文化を日本中、世界中に広める。
- 丹後ちりめんはここだけのもので、大切にし、知識のある人や活動している人の話が聞ける機会をつくり、関心を持つ生徒を増やす。
- 丹後の特産物に関係した職業を増やし、丹後に住み続ける人が増えるようにする。そのためには、地域の特産物などを生徒に教える講座等の設置も考える。
- 丹後をもっとアピールして若い人が戻ってこられる職場をつくる。
- 大人が楽しくしっかりと暮らせるまちづくりをする。
- 何でも行政にお願いせず、自分の出来ることはする。どうしても出来ないことは行政にお願いするという区別をしていく。
- 大学を出て帰ってきた技術を持った人や知識人などで、丹後にシンクタンクをつくる。
- 道路整備とともに、観光施設のあるところには観光バスが入れる駐車場を整備する。
- 防災システムの重点的整備と台風による崩壊した道路の改修をまずする。
- 漁業従事者に海洋学を、観光旅館で働く人にプロとしてのお客に対応できる話し方、所作などを、専門家から学べるような短期間のコミュニティカレッジをつくる。丹後の漁師さんやホテル・旅館の仲居さんも素晴らしいプロであり、これらの人が講師となって他所からも入学してくれるような学校をつくる。
- 丹後の各地域の食文化、四季の行事などの交流を進める。
- 空いている民家や建物を利用して、丹後一体を泊まりながら遊んだり学んだり、僅かな費用で何日間かを次々と移り住み、楽しい仲間づくりができるなど、そのような場所を活用する。
- 文化芸術の創作活動のため廃校を利用できるように規制緩和をする。
- 子どもたちが地域のことを知り、体験を通じて地域に興味を持つようにいろいろな活動をする。
- 消防団員の減少に対して、消防団と連携した自主防災組織の立ち上げ、女性消防団員の配置など、地域とPTA、家庭とのつながりを強化する。
- 地域コミュニティがなく、地区の高齢者の状況もわからず、田舎でも都会化している。地域コミュニティをしっかりとつくる。
- 丹後が一つとなって全国発信出来るようなものをどんどんつくる。
- 豊かなまちづくりのためには、みんなが地域の連帯感・絆を取り戻す。
- 丹後として、各町ごとでなく地域住民が全員で動いていく取組をする。
- 教育や独居高齢者の問題も地域全体のこととして考え、情報を公開して、地域住民の



意識を高め、一体化して取り組む。

- 他の団体との連携によるまちおこしを進めていく。そのために地域のみながついていくようなリーダーが必要だ。多くのボランティアがいる中で、リーダーが各集落で力を発揮して地域をまとめていくようにする。
- 体力のある高齢者は地域づくりにたくさん参加してもらい、丹後を一つにすることを考える。自然も人も資源、十分活用する。
- 地域の人が自分で作った野菜を店に持ってくる、そして他の商品を買って帰る、これでお金が地域内で循環するような仕組みとなる。
- 行政だけに頼るものではなくて、住民も自立することを考える。
- 丹後のシンクタンクをつくり、各分野に精通した人が大学で学んだ知識を生かし、丹後で生まれ育った強みで、もう一度古代人の交易の知恵と技を掘り起こしていく。たくさんの異文化に挑戦し、体験を活かすことで、住民の資質を高めていく。
- 丹後は道路の遅れから発展も取り残されている感じがする。道路をよくして交通の便がよくなればもっともっといろいろなまちづくりが広がる。
- 京丹後市になって各地でイベントがあるが、あじわいの郷は拠点になる。
- 美しい山と海に囲まれた丹後がこれ以上単なる地方都市にならないよう、美観と水と空気が残るよう、都会のマネではなく丹後の良さを感じるまちにする。
- 丹後の風土を生かしたまちにする。寺社仏閣などの文化財の保護に力を入れる。
- 公害のあるような汚い都市にはしないため、規制をヨーロッパ並みにして、人と人とが交流し、ヨーロッパのような美しい丹後を残す。
- 漁業や林業にも力を入れ、子供達が帰ってきたいと思う美しい丹後にする。
- 小さい子どもたちを親と一緒に見守りながら遊ばせることのできる小さな公園をつくる。
- 市外から来た者が永く住みたいと思えるまちづくりをする。
- 子供を産んで永住するためにも一般市民、会社員、低所得者が住める住宅を建てる。
- 里山や川など子どもたちの足で行ける距離に、安心して遊び集う場をつくる。地域の公園も不十分で、児童施設や文化施設もなく、児童や学生の居場所がない、学校以外の場所をつくる。
- ボランティアチケット制相互援助制度の導入を考える。丹後の過疎化と核家族化による日々の暮らしの不便と不安を解消し、ともに支え合って生きている共生感や信頼感を高め、既存の援助制度のすき間を埋めて、よりきめ細かな物心面の相互援助となる。
- 村ごと町ごとのチケットを各自が持ち、必要な時にそのチケットで助けてもらったり、援助したりできることを考える。まちが生き生きとボランティアあふれたやさしさのあるまちにする。
- 大阪、神戸、京都からも入居を希望してくるような有料老人ホームを建設する。巡回

バス、海のまわりを散歩できる安心コースを考える。

- 都会から来て丹後で暮らしている人と意見交換する集いなどを行う。
- 昔あった村役場を再起動をさせる。単なる取次店ではなく、その地域の住民の生活相談等の総合サロンの場とする。
- 公民館を更に活性化させる。
- 全国どこもやっていない地球に優しいマウンテンバイクのツーデーマーチを行う。
- 各家庭において何かの時役立つ丹後地域の保存版地図を発行する。
- 風、光、砂、温泉の福祉施設王国丹後にする。
- 丹後にある健康に良い隠れた銘水の利用、黒豆の豆腐の消費拡大。
- 北近畿タンゴ鉄道に自転車も一緒に乗れるようにする。
- 防災について危険箇所を総点検して把握と対応を実施する。
- 入湯料の割引を行う。
- 丹後半島の季節風を活用し、風力発電を大幅に拡大し、余った電気を水素の形で蓄える。

# 丹後活動プランのとりまとめ経過

丹後活動プランは、公開形式による集中ディスカッションでの委員や地域の方々の意見・提案、地域連携組織である各関係団体及び管内自治体との意見交換をベースに、丹後地域における京都府の機関で構成する丹後地域政策会議で協議し、京都府丹後広域振興局で取りまとめたものである。

## 1 集中ディスカッション

〔 学識者、地域づくり・まちづくり関係者及び各分野の地元活動関係者の三者構成  
で集中的に意見交換 〕

観光・レクリエーション分野……平成16年7月21日(公開)、平成16年8月27日(地域づくり関係者及び地元活動者による)

農林水産業分野……平成16年8月6日(公開)、平成16年9月22日(地域づくり関係者及び地元活動者による)

織物、機械金属業等地域産業分野……平成16年9月21日(公開)

生活・地域づくり分野……平成16年11月14日(公開)

## 2 地域連携組織

平成16年10月～平成17年3月の間、観光関係団体、商工関係団体、農林水産関係団体等と意見交換

## 3 自治体

平成16年8月～平成17年2月の間、担当者レベルからトップレベルまで数回に分けて意見交換

## 4 広報関連

- 平成16年9月12日 たんご活動プランニュース発行 意見募集実施
- 平成17年1月6日 丹後広域振興局ホームページ開設 丹後活動プラン取組状況の広報
- 平成17年2月11日 丹後活動プラン(中間案)府民意見募集(～平成17年3月3日)
- 平成17年2月17日 たんご活動プランニュース第2号発行 意見募集実施

## 【丹後活動プラン集中ディスカッション委員等】

<五十音順：敬称略>

### ■ 学識者

川北 眞史	京都工芸繊維大学繊維学部 デザイン経営工学科教授	中川 慶子	京都ノートルダム女子大学人間 文化学部生活福祉文化学科教授
坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学芸術学部観 光デザイン学科教授	中川聰七郎	鳥取環境大学環境政策学科教授
竹内佐和子	都市デザイナー、(株)投資工学 センター代表取締役	宗田 好史	京都府立大学人間環境学部環 境デザイン学科助教授

(注) 各委員は関係する分野に参加

### ■ 地域づくり、まちづくり関係者

飯尾 毅	NPO法人里山ネットワーク世 屋代表、(株)飯尾醸造代表取締役	岸田 尚也	(社)峰山青年会議所理事長
今井 一雄	(株)三洋商事代表取締役、天橋 塾代表	中定 和敏	宮津ロイヤルホテル支配人
大歳 昌彦	地域おこしプランナー、(株)オ ンステージ代表取締役	錦織 隆	(株)日進製作所代表取締役

### ■ 地元活動関係者

#### ◆ <観光・レクリエーション関係>

海部 毅成	籠神社禰宜	福山 勝久	旅館昭恋館よ志のや代表
蛭子 正之	ホテルるびすや代表	松下 英秋	丹後海陸交通(株)取締役営業部長
沖田真奈美	旅館佳松苑	向井久仁子	向井酒造(株)杜氏
白井 正博	旅館あおき橘風苑代表	山崎 浩孝	天橋立ワイン(株)代表取締役
友松 祐也	如意寺住職		

#### ◆ <農林漁業関係>

栞原 節子	丹後木炭、インテリア炭生産販売	藤田 信雄	京都府指導林家
小南 彰弘	青年漁業士	松尾 省二	青年漁業士
西川 誠司	(有)誠武農園代表取締役、指導農業士	吉岡 義隆	よしおか(有)代表取締役
野木 武	エコファーマー、指導農業士	和田 房子	女性農業士、京丹後市農業委員
平林 衛	(有)丹後ジャージー牧場代表取締役		

◆ <商工業関係>

一色 直樹	(株)一色テキスタイル代表取締役	田茂井 勇人	田勇機業(株)代表取締役
桜井昇一郎	桜井工機(株)代表取締役	廣野 公昭	(株)いととめ代表取締役
田中 隆司	(株)積進代表取締役	山岡 経助	(株)日進製作所常務取締役

◆ <生活・まちづくり関係>

蒲田 充弘	NPO法人丹後の自然を守る会理事長	田崎 徳也	京都府立峰山高等学校二年生
川嶋 華純	京都府立加悦谷高等学校二年生	田中由美子	京丹後市立豊栄小学校PTA副会長
櫛田恵里子	峰山乳児院施設長	野木 三司	京丹後市消防団副団長
小牧 恵子	与謝郡連合婦人会会長	中西 竜幸	NPO法人丹後福祉応援団
島村 佳	陶芸家・丹後宮津焼辻工房主宰	吉岡 秀巳	人権擁護委員、ボランティア野の花代表

## 丹後地域政策会議の構成

京都府丹後広域振興局長	中 村 彰
京都府丹後広域振興局副局長	栗 田 誠一郎
京都府丹後広域振興局企画総務部長(農林商工部長事務取扱)	本 田 進
京都府丹後広域振興局健康福祉部長(丹後保健所長)	田 中 稔之
京都府丹後広域振興局建設部長(丹後土木事務所長)	松 田 康雄
京都府立与謝の海病院長	内 藤 和世
京都府立看護学校長	山 田 重保
京都府織物・機械金属振興センター所長	加 藤 隆
京都府丹後農業研究所長	河 合 博史
京都府丹後農業改良普及センター所長	藤 崎 徳治
京都府丹後家畜保健衛生所長	谷 口 和紀
京都府畜産技術センター礎高原牧場長	乾 秀治
丹後土地改良事務所長	松 村 孝志
京都府水産事務所長	宗 清 正廣
京都府立海洋センター所長	桑 原 昭彦
京都府港湾事務所長	野 村 純逸
京都府丹後教育局長	吉 岡 一寿
京都府立丹後郷土資料館長	西 岡 喜与一



# 用語解説

## <ア行>

### IT

インフォメーション・テクノロジー（情報技術）の略。コンピューターやデータ通信に関する技術を総称的に表す語。直訳すると「情報技術」だが、「情報通信技術」と解されることが多く、コンピューターとネットワーク（特にインターネット）に関連する技術と捉えられている。日本では内閣総理大臣を本部長とする「情報通信技術（IT）戦略本部」が2000年7月7日の閣議決定で設置されている。

### アイデンティティー

自己同一性、主体性、独自性の意味。

### インフラ

インフラストラクチャーの略。交通、通信、電力、水道、公共施設など社会や産業の基盤として整備される施設。

### ウッドマイレージ

木材の輸送過程のエネルギー消費を少なくし環境にやさしい木の利用を促進するため、木材の輸送距離と木材量を乗じた指標を「ウッドマイレージ」として明らかにするもの。輸入材に比べて環境に優しい府内産材をPRするため、京都府では、本年から、木材輸送に伴う二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を示す認証制度を全国で初めてスタートさせる。

### 海の駅

道路利用者の休憩施設である「道の駅」に対して、海を軸にして、海から立ち寄れ、地域の交流や情報発信ができる拠点施設。

### エキスパート

専門家、熟達者の意味。

### エコファーマー

平成11年度に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づいた制度で、①堆肥等の土づくりを基本として、②化学肥料、化学農薬の使用量を低減するための生産方式を自分の農業経営に導入する計画を立て、知事に申請し認定された農業者。

### NPO

英語の Non-Profit Organization の略で、ボランティア団体や市民活動団体などの「民間非営利組織」を指す。株式会社などの営利企業とは違って、「利益追求のためではなく、社会的な使命の実現を目指して活動する組織や団体」のこと。教育、文化、医療、福祉、国際協力など、様々な社会的活動を行うNPOがある。

## <カ行>

### ギガビット

10億ビット。ギガは「10億倍」「10億」の意味の接頭語。ビットは、コンピューターの情報量の最小単位。京都デジタル疎水ネットワークは、幹線に2.4ギガbps（ビット／毎秒）という全国でもトップクラスの高速大容量回線が特徴。

### キトサン

カニの殻などに含まれる動物性の繊維である「キチン」を、化学処理して作られたもの。食品素材、農業・園芸用資材や医療分野など多くの用途がある。

### キャンペーン

宣伝などのための運動、作戦。

### 京都エコエネルギープロジェクト

新エネルギー等地域集中実証研究として、京都府の提案が採択された新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の事業。京丹後市弥栄町において、平成15～19年度の5年間で、自然エネルギー（太陽光発電、風力発電、バイオガス発電など）の各種の発電を組み合わせ電源を制御し、一定の品質の電力として供給するための実証研究。

### 京都KOS180

平成14年に米の品質向上を目指すために、緩効性肥料、遅植、粗植、1等米、80%以上の頭文字を取って名付けた取組。緩効性肥料＝ゆっくりと長期間にわたって肥料の成分が出てくる肥料。

### 京都デジタル疎水ネットワーク

京都府が整備した南北を結ぶ高速大容量の光ファイバーによる情報通信ネットワーク。教育、医療、行政、防災等さまざまな分野で活用が可能で、京都府内の関係機関を結ぶほか、大学や企業にも利用されており、広く無償で提供している。

### 京都府自然環境保全地域

自然環境保全法、京都府環境を守り育てる条例に基づき、優れた天然林が相当部分を占める森林の区域などの要件を満たす地域を指定。現在、丹後上世屋内山地域（宮津市・京丹後市大宮町）と片波川源流域京都府自然環境保全地域（北桑田郡京北町・京都市左京区）の2地域が指定。

### 京都府歴史的な自然環境保全地域

京都府環境を守り育てる条例に基づき、府自然環境保全地域以外の土地の区域で歴史的遺産と密接に結びついた歴史的風土としての自然環境のうち、自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要なものを指定。現在、権現山以外に9箇所が指定。

### コア

核、芯、中心部の意。

## <サ行>

### SARS (サーズ)

重症急性呼吸器症候群。新型肺炎で、高熱と筋肉痛、せきなど肺炎に似た症状ながら、抗生物質が効かないことで致死率が高いのが特徴。

### 先染着尺

先染＝織物を織る前に、原料の糸を精練（生糸についたタンパク質（セリシン）や汚れを取るために、糸を洗う工程）、染色してから織った織物。着尺＝普通、幅約37cm、長さ約12.5mを一反として織り上げた、着物を仕立てるための大人用長着一枚分の生地。

### 砂嘴（さし）

海岸から細長く突出した砂礫の堆積した地形。沿岸流で運搬された砂礫が湾口に堆積して水面上に表れたもの。

### サテライト

衛星、人工衛星の意味。サテライトオフィスは、本社とは別に衛星（サテライト）のように郊外に分散させたオフィスのこと。

### 資源管理型漁業

水産資源を有効かつ持続的に利用していくために、若齢魚の保護や禁漁期の設定などの資源管理を進めていく漁業のこと。京都府においては、捕獲した小型の魚やズワイガニの再放流や定置網の網目を大きくすることによる幼稚魚の保護などが行われている。

### しば（皺）

強撚糸（強い撚<sup>よ</sup>りをかけた糸）を用いたちりめんなどの織物の表面に現れた波状や粒状のしわ。

### ジャカード

ジャカードとは、紋様を作る装置のことで、フランス人発明家のジャカールが考案した。模様を自由にデザインし、パンチカードに打つと紋様が出てくる仕組みは、画期的なアイデアであった。ジャガードとも言う。

### 徐福伝説

秦の始皇帝の命で徐福が不老不死の妙薬を求めて日本に渡来したという伝説で、伊根町に徐福がまつられているといわれる神社がある。

### 精密型鍛造

鍛造＝『鍛＝きたえて』物を『造＝つくる』という意味。金属を叩いて形を整えながら強くすること。型鍛造＝金属に製品の形を彫り込み（＝金型）、その金型で鍛造することにより、同じ形の製品が出来る。

### セラピー

治療、療法の意。特に薬剤や手術を用いない治療、療法。セラピーとも言う。

タラソセラピーは、海という意味を持つギリシャ語の thalassa（タラサ）に由来し、海水、海藻、海泥などの海の資源を活用し、心と身体のリラクゼーションを高めるフランスで生まれた海洋療法。海の資源はミネラルやイオンをはじめとする様々な成分が含まれている。

## <タ行>

### 丹後地域文化オープンカレッジ

平成6年度から都市部の大学生が丹後地域をフィールドに調査・研究を行い、地域との交流を図るため京都府の提唱により開設。年度末には研究成果を還元し、地元での地域づくりの参考にするための活動報告会も開催。これまでに延約100大学・200グループ・2千人の大学生が参加。（平成15年度末実績）

### 丹後テクノセンター

丹後機械金属業界の中核施設。丹後機械工業協同組合の事務所。鋼材倉庫、加工製品展示室、イオンプレーティング室、丹後熱処理センター工場等の施設を有する。組合は、宮津市、京丹後市、与謝郡の機械金属関係の企業で構成。会員数108名。

### 丹後版「への字型栽培」

への字とは肥料の時期と量をグラフのイメージにしたもので、最初の基肥を減らすことにより、初期生育を抑え、出穂45日前の追肥により中期以降の生育を旺盛にし、稲株の活力を収穫期まで維持し、品質の向上を図る栽培方法。

### 地球デザインスクール

丹後海と星の見える丘公園の工事着手（平成9年度）に併せて、京都府宮津市波見地域の海に面した里山の廃校を改装して、地球環境と共生する知恵を学ぶための教室開催を通じてその成果を公園づくりに活かすため、京都府の提唱により開設。これまでに「森のモノレール教室」や「パンと窯の教室」など約160のユニークな教室に延1万人が参加。（平成15年度末実績）

### ドメスティックバイオレンス

直訳すると「家庭内暴力」。一般的には「夫や恋人など親密な関係にある、又はあった男性から女性に対して振るわれる暴力や心身に有害な影響を及ぼす言動」という意味で使用されることが多いが、親子間の暴力などまで含めた意味で使っている場合もある。

## <ナ行>

### 認定農業者

自ら作成した「農業経営改善計画」を市町村長から認定された農業者。農業経営基盤強化促進法に基づく、いわゆる「法に基づく認定農業者」のほかに、京都府では、今後効率的・安定的な農業経営に発展する可能性のある多様な担い手も独自に認定し、地域農業の担い手として育成を図ることとしている。

### 農業粗生産額

農業生産活動における最終生産物の総生産額。推計期間（毎年1月1日～12月31日）における市町村別・農産物別の農家庭先販売価格を乗じて算出したもの。

## <ハ行>

### ハイパー

超越した、超過の、過度の、非常に。接頭語のひとつ。

### バイオガス

家畜ふん尿や生ゴミ等のバイオマス（有機物）を嫌気性（メタン）発酵させることにより得られるガスで、主にメタンと二酸化炭素からなっている。原料としているいろいろな有機性廃棄物（家畜糞尿、家庭・食品産業からの生ゴミ、食品産業からの有機性残さ、下水汚泥等）が利用できるが、家畜ふん尿の有効活用方法の一つとして注目されている。

### バイオマス

エネルギーや原料に使うことができる動植物資源及びそれを起源とする廃棄物の総称。国では、平成14年12月に関係省庁のもとにバイオマス・ニッポン総合戦略が策定され、取組が進められている。

### 八丁撚糸機

ちりめんは、緯糸の強撚糸（強い撚り（ねじり）をかけた糸）により独特の風合いを引き出しているが、糸に強い撚り（ねじり）をかける機械（撚糸機）の種類で、丹後では古くから八丁撚糸機が使用されていた。

### フリーストール牛舎

繋ぎ飼いではなく、牛が自由に動き回れる牛舎のこと。牛のストレスが軽減でき、健康管理が向上し乳量の増加と乳質の改善が期待できる。

### ブロードバンド

日本語に訳すと「広い帯域」という意味。アナログ電話回線（モデム）やISDNを使った従来のインターネット接続とはまったく違うインターネット接続方式のこと。CATV（ケーブルテレビ回線）、ADSL、光ファイバー回線、無線LAN、固定無線などを用いて高速でデータを伝送する大容量の通信サービス。（ADSL：非対称デジタル加入者線。電話回線を使って高速でデータを伝送できる通信サービス。無線LAN：伝送路として有線ケーブルを利用せず、赤外線や電波などの無線を利用したLAN（高速データ通信構内ネットワーク））。

### ポテンシャル

潜在的に持っている可能な能力。

## <マ行>

### 無給餌養殖

餌を与えず天然のプランクトン等のみで育てる養殖のことで、特に、カキ、イワガキ、トリガイ等の二枚貝の養殖において普及が進んでおり、海洋環境に優しい養殖でもある。

### モータリゼーション

自動車の大衆化、生活必需品としての自家用自動車の普及。



### 木酢液（竹酢液）

炭を焼く（木を燻<sup>いぶ</sup>す）時に発生する煙を冷却して液体にしたもので、木炭の製造過程で生まれるいわば副産物。保水・保湿効果、肌が本来持っている自然治癒力を高める、かゆみを抑える、消毒・殺菌・消炎・消臭作用があるなどとして注目を集めている。お風呂に入れたり、水で薄めて洗顔に使ったり、水虫退治に使ったり、庭にまくなど、さまざまな使用法が可能。

竹酢液は竹炭を焼く過程で出てくる煙（熱分解するときに発生するガス成分と水蒸気）を冷やして採取する。わかっているだけでも約300種類以上の成分が含まれているが主成分の酢酸は、皮膚表面の角質をやわらかくしたり、引き締めてくれる。アルコール成分は殺菌、消毒の働きをし、アルデヒド成分は浸透性に優れている。

### モニターツアー

モニターは、企業、テレビ番組、雑誌、日用品、食品、行政等、あらゆる媒体に対して、意見や感想を述べる人のことを言う。新しく企画された体験型の旅行のことで、参加者はその結果を報告する。

## <ラ行>

### ランドマーク

建物や記念碑などその土地の象徴となるもの。

### リアス式海岸

起伏の大きい山地が、地盤の沈降または海面の上昇によって、海面下に沈んで生じた海岸。一般に海岸まで山地のせまった半島と、その間に挟まれたおぼれ谷とが直交し、鋸歯（きょし）状の海岸を形成する。

### リハビリ

リハビリテーションの略。事故や病気による後遺症を持つ人などに、最大限の機能回復と社会生活への復帰を目指して行われる総合的な治療の訓練のこと。

### 林業粗生産額

林産物の生産量に単位当たりの平均価格を乗じて得た額。

## <ワ行>

### ワンストップショッピング

1ヵ所で必要な買い物を全て済ませること。

◎京都府丹後広域振興局 管内図

